

# 第5回高校生ものづくりコンテスト山形県大会 電気工事部門

山形県立鶴岡工業高等学校  
事務局 平山 豊

## 1 はじめに

当部門は雇用・能力開発機構山形センターを会場に6月20日(土)、21(日)の2日間に渡ってコンテストを実施した。

今大会には、これまで最高の8校13名の参加申込があった。参加者には、競技会場の広さの問題や競技運営において若干の不便を感じさせることも予想されたが、今後、競技力の向上に結び付いていくことを期待し、全員の参加を認め大会の実施に踏み切った。



図1 (開会式の様子)

## 2 競技

本大会では、基本的に全国大会の課題と採点方法を採用したが、電気工事の工具や材料等は高額であるため、金銭的な各校の負担を軽減することを考え、若干の本県独自ルールを取り入れて競技を進めることにした。

## 3 結果

順位	学校名 (学年 学科)	氏名
1	鶴岡工業高校 (3年 電気電子システム科)	酒井 貴大
2	山形工業高校 (3年 電子システム科)	庄司 瑞樹
2	長井工業高校 (3年 電子システム科)	木島 義己



図2 (競技の様子)

## 4 おわりに

今年度の競技を振り返り、全体的な技術力の高さについては、審査員からも高い評価を得ることができた。しかし、年々課題も高度になり、指導も難しくなっている。特に、初出場校にとっては困難な課題であったと考える。また、練習に要する材料費を考えると、その資金確保には各校苦慮しているようである。さらなる技術の向上のためには、十分に練習回数を重ねられるだけの潤沢な資金確保が必要である。

東北大会に出場した鶴岡工業高校の酒井貴大君は残念ながら入賞することはできなかった。作品の美しさについては、非常に高く評価されたが、優勝した選手においては減点箇所がほとんどない仕上がりであった。全国や東北で結果を残すためには、いかにルールに忠実な作業を進められるかが重要であり、指導者がルールや減点内容を熟知し、日々の練習から細部に渡る細やかな指導が必要であると感じた。

最後に、今年度も山形県電気工事工業組合様からは高額な材料提供、山形県電気工事高等職業訓練校の先生方には審査と貴重なご助言をいただいた。

また、雇用・能力開発機構山形センターには会場と設備をご提供いただくなど、大会の運営に対してご支援くださった多くの方々に深く感謝申し上げます。